

成果報告書<概要>

施設・所属: McMaster University

氏名: 内藤 亮

1. 概要の構成は自由ですが、留学成果報告として広報資料に掲載されます点をご留意ください。
2. 研究目的、研究手法、研究成果など、一般の方にもわかりやすくしてください。
3. 3.A4 1ページでまとめてください。(図表・写真などの貼付を含む、日本語)

概要:

2018年4月から2020年3月まで、Population Health Research Institution, McMaster 大学 (Hamilton, Ontario, Canada)へ研究および修士号取得を目的に留学しましたことをご報告申し上げます。

McMaster 大学はカナダの中規模大学の一つですが、EBM(科学的根拠に基づく医療)の概念を提唱した EBM の発祥地であるなど、医科学研究領域における貢献度が高い研究および教育機関です。その大学院コースの一つである Health Research Methodology (HRM)は、臨床研究を行う上での基礎的知識を学び、実践することを目的とした研究プログラムです。

一方、Population Health Research Institute (PHRI)は、McMaster 大学と提携する、臨床研究に特化した研究施設で、世界的に有名な循環器研究者である Dr. Salim Yusuf の主導の下、これまでに多くの多施設ランダム化比較試験や大規模コホート研究が行われており、また現在も複数の国際的臨床研究が進行しています。

私は、Dr. Yusuf の指導下、大規模コホート研究の一つである Prospective Urban Rural Epidemiological Study; PURE Study を実施するグループに属し、非伝染性疾患の危険因子同定を目的とした研究に携わりました。また同時に McMaster 大学の HRM プログラムにて修士号を取得いたしました。

研究紹介:

-目的: 高齢化社会や社会の構造変化に伴い健康への悪影響が増大することが予想される社会的要因の一つである、社会的孤立(social isolation)が健康に与える影響について、大規模コホート(多様な社会背景を有する 5 大陸 21 ヶ国に属する 14 万人の中年成人が対象)にて調査しました。

-手法: 約9年の平均観察期間において、social isolation の臨床イベント(死亡・心血管イベント・非心血管イベント)への影響およびその寄与度を生存解析にて調べました。

-成果: Social isolation と関連する背景因子および、social isolation が死亡や多様な疾患と関連するという結果が得られました。本研究は、HRM プログラムの修士論文の一部として報告しました。今後、学術雑誌にて報告する予定です。

COVID-19により2020年3月上旬から McMaster 大学および PHRI は段階的に活動を縮小し、同中旬には大学は事実上の閉鎖となりました。生活への制限のみならず渡航制限も厳しくなったことで予定より早期に帰国することとなりましたが、総合的に非常に充実した研究期間となりました。

最後に、本留学を支えて頂きました MSD 生命科学財団に心より御礼申し上げます。